

# 留 学 報 告 書

記入日:2014年1月7日

所属学部／研究科・学科／専攻	文学部文学科ドイツ文学専攻
留学先国	ドイツ
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	フリードリヒ・シラー・イエナ大学 Friedrich Schiller Universität Jena
留学期間	2013年4月～2013年8月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	学年による区別はなし
留学先での所属学部等	DAF, Philosophische Fakultät
帰国年月日	2013年9月17日
明治大学卒業予定年	2015年3月
<b>留学先大学について</b>	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:10月初旬～2月初旬 2学期:4月初旬～7月中旬
学生数	約2万名
創立年	1558年

留学費用項目	現地通貨(ユーロ)	円	備考
授業料	なし	0円	
宿舍費	1,400(200€/月)	175,000円	
食費	800	100,000円	
図書費	200	25,000円	
学用品費	200	25,000円	
教養娯楽費	500	62,500円	
被服費	300	37,500円	
医療費	なし	0円	
保険費	1,100	137,500円	
渡航旅費	1,200	150,000円	
雑費	600	75,000円	
その他		円	
<b>合計</b>	6,300	787,500円	1ユーロ=125円として計算。

## 渡航関連

渡航経路: ANA の成田フランクフルト直行便

チケットの種類	正規割引航空券(エコ割ロングステイ)
往路	セット購入のため算出不可
復路	
合計	125,000 円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

ANA

## 滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

大学の学生寮→ドイツ人学生とのシェアアパートメント

2)部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数 )

3)住居を探した方法:

大学の学生組合から寮を仲介。その後は友人の紹介で WG(シェアアパート)に引っ越した。

4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

学生寮は郊外に位置しておりアクセスが悪かったこと、3人で1つの住居だったが衛生面で問題があった。学生組合に部屋替えを頼んだが不可だったので、自分で部屋を探して退去した。学生寮は自分で同居人を選べないのでそういった問題を覚悟しておくべきだと思う。郊外ではあるが1人用のアパートもあるので、自分で部屋を探せない場合はそちらに申し込むことをお勧めする。

## 現地情報

1)現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会が無かった利用した:

2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

ドイツ人の友人や先生方、日本大使館の知人。おそらく大学の留学生課で対応してもらえと思う。

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

外務省のHPで情報を収集した。貴重品の管理や、深夜に一人で外を出ないことなど、ごく基本的なことを対策した。犯罪に巻き込まれることはなかった。

4)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮のインターネットはケーブルのみ、町の中心部では大体大学の wifi が使えた。速度は上り 6-8Mbps程度で、あまり良いとは言えない。携帯は日本で使っていたものを SIM フリー化して現地プリペイド SIM を購入した。月 10 ユーロ程度。

5)現地での資金調達はどのように行いましたか? (例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

キャッシングが一番レートがよかったので、日本の銀行口座で資金を一括管理し、まとまった金額をキャッシングして現地口座にいられた。現地銀行口座はパスポートと住民登録があれば開設できた。

6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

文房具類(質が日本の方が良い)

## 進路について

1) 進路 <input type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input checked="" type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2) 進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など
3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)
4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。 (例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)
5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。

## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1) 留学先で取得した単位数合計 45単位	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。 <input checked="" type="checkbox"/> 12単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語): Politische Philosophie	履修した授業科目名(日本語): 政治哲学
科目設置学部・研究科	哲学部哲学科
履修期間	2013年夏学期
単位数	5
本学での単位認定状況	2単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	ゼミ
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Katzer, Matthias
授業内容	参加人数 20人ほどのゼミ。毎週ルソー、ミル、ハーバーマスなどの政治哲学に関する文献を読み議論する。日本のような学生による発表はなく、先生がファシリテーターとして議論を進行した。
試験・課題など	課題文献が毎週 40 ページほどある。読んでいないと議論ができない。学期末は 15-25 ページの論文を提出し、単位認定。それに際して 2 ページほどの小論文課題があった。
感想を自由記入	一番ハードではあったが、議論を通じて現地学生の友人が増え、最も収穫のあった授業だった。先生の面倒見がとてよく、初めのまだゼミでの早口のドイツ語についていけなかったときには、英語でサブゼミを開いてくださった。論文に対しても常に相談にのっていただき、2 ページにわたるコメントをいただいた。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Politische Philosophie		政治哲学	
科目設置学部・研究科	哲学部哲学科		
履修期間	2013年夏学期		
単位数	5		
本学での単位認定状況	0単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義		
授業時間数	1週間に90分が1回		
担当教授	Privatdozent Dr. Dr. phil. Wesche		
授業内容	政治哲学について社会契約論、民主主義などのテーマごとに講義。		
試験・課題など	試験で単位認定がされる。60分で与えられた3つのテーマから1つを選び、2-3ページの答案を作成。		
感想を自由記入	板書なしで先生が90分間話し続けるという典型的なドイツの講義であった。試験に際しては日本語の辞書の持ち込みが許可された。試験の事前事務登録を忘れたため単位取得ができなかった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Berufssprache		ビジネスドイツ語	
科目設置学部・研究科	DAF		
履修期間	2013年夏学期		
単位数	10		
本学での単位認定状況	2単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	ゼミ		
授業時間数	1週間に90分が2回		
担当教授	Korneva, Anna, M.A.		
授業内容	ビジネスレターの書き方など、ビジネスで用いられるドイツ語を、実際にシミュレーションしながら学ぶ。		
試験・課題など	自由にテーマを決めてプレゼンを行ったり、グループで架空の企業を作り経営方針についての報告書などを作成する課題があり、それによって成績評価された。		
感想を自由記入	留学生向けの授業で、さまざまな専攻の人が集まっているので課題の行いかたが創造性にとんでおもしろかった。また経営に関する知識も得ることができたので充実した授業だった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Grammatik und Stilistik der Deutschen Sprache F2		ドイツ語文法・文体論	
科目設置学部・研究科	DAF		
履修期間	2013年夏学期		
単位数	10		
本学での単位認定状況	2単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	ゼミ		
授業時間数	1週間に90分が2回		
担当教授	Hascher, Christian, M. A.		
授業内容	文法に特化した授業。上級者向けのクラスだったので細かいニュアンスの違いや、文学表現、詩を作ることを学ぶ。		
試験・課題など	毎回学んだものの演習問題を宿題として出される。出席日数と期末試験で成績評価。		
感想を自由記入	学ぶ知識は新しいものが多かったが、受講人数が多く、まわりのモチベーションも低かったのでそれを応用する機会が与えられなかった。試験や論文作成の際に役立った。		

履修した授業科目名(大学言語):		履修留学先した授業科目名(日本語):	
Akademischen Arbeiten		学術論文	
科目設置学部・研究科	DAF		
履修期間	2013 年夏学期		
単位数	5		
本学での単位認定状況	2単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	ゼミ		
授業時間数	1週間に 90 分が 1 回		
担当教授	Bettermann, Christel , Dipl.-Lehrerin		
授業内容	論文の書き方を学ぶ授業。文章要約や資料の検索方法、テーマの決め方などを学んだ。		
試験・課題など	授業で学んだ手法を用い、5-6 ページの論文の要約版を作成。それによって成績評価。		
感想を自由記入	日本の大学でも是非開講してほしい講義だった。体系的に論文執筆の手順を学び、アドバイスを受けながら実践して身につけることができたので、論文執筆にとっても役立った。また、ドイツ語の学術的文章を読みなれたので、ドイツ語力も大きく向上したと思う。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Deutsche Gegenwartssprache		現代ドイツ語	
科目設置学部・研究科	DAF		
履修期間	2013 年夏学期		
単位数	10		
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	ゼミ		
授業時間数	1週間に 90 分が 2 回		
担当教授	Lange, Anne-Kathrin, Magister Artium Voblikova, Albina		
授業内容	B2の市販のテキストを用いたドイツ語の授業。語彙・文法・作文・読解・リスニングのすべてを総合的に学んだ。		
試験・課題など	期末テストと任意のテーマによるプレゼン、プレゼンの原稿を書きだして提出し成績評価。		
感想を自由記入	語学学校の授業と似ていたが、C1-C2 の生徒しかいなかったので教材が簡単すぎ、あまり学ぶものはなかった。先生のモチベーションが語学学校よりも低く、授業の質がだんだん下がっていった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Korrektive Phonetik		発音矯正	
科目設置学部・研究科	DAF		
履修期間	2013 年夏学期		
単位数	5		
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	ゼミ		
授業時間数	1週間に 90 分が 1 回		
担当教授	Lange, Anne-Kathrin, Magister Artium		
授業内容	発音やアクセントを学ぶ授業。毎週特定の発音について学び、自宅で練習。よりネイティブに近くなる話し方を実践的に学んだ。		
試験・課題など	与えられたスクリプトを音読する口頭試験で成績評価。		
感想を自由記入	毎回ゲーム形式で発音の練習をするので飽きなかった。週に 90 分のみで発音が改善するはずもないので、本当に矯正したい場合は自宅で毎日練習が必須だった。受講生同士で日ごろから互いの発音を矯正しあうきっかけとなった。		

## 留学に関するタイムチャート

留学までの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。  
(形式は箇条書きなど簡単なもので構いません)

2012年 1月～3月	タンデムパートナーを作り、週 1 回ドイツ語、日本語のタンデムをした。 1 ヶ月間イギリスに滞在しケンブリッジの C1 を取得。
4月～7月	独検 2 級を取得
8月～9月	ドイツに 2 ヶ月間滞在し、ゲーテの B2 を取得した。
10月～12月	ドイツ語弁論大会に参加するための原稿を書くが、ドイツ語の未熟さを実感し、留学を決意。 独検準 1 級、1 級取得。
2013年 1月～3月	ゲーテの C1、TEST DAF(5-5-4-5)に合格。 留学に先立って 1 ヶ月早く渡航し語学学校に通う。
4月～7月	語学力がまだ足りなかったため、現地の授業と並行してドイツ語を自習。 日々課題に追われた。
8月～9月	ベルギーでインターンをしながら論文執筆。帰国し復学。
10月～12月	成績がそろい単位認定

## 留学体験記

留学しようと決めた理由	独文専攻なのでドイツ語で卒論を書くものだと思っていましたが、現状では語学力が到底足りず、大学で伸ばすことも困難と感じたからです。
留学のためにした準備, しておけば良かったと思う準備	語学はいくら勉強しても多すぎることはないと思います。ドイツ人とはしばしば政治について議論になるので、日本の政治、政治制度については最低限答えられるようにしておくべきだと思います。また福島原発問題については常に尋ねられるので、ある程度の現状は把握しておいた方が良いでしょう。ドイツで誤った報道をされている場合が少なからずあります。専門性の高い語彙についてもっと多く学んでおけば良かったと思いました。
この留学先を選んだ理由	ドイツで夏学期のみ留学できる大学は限られていたので、その中から友人のアドバイスに従って選びました。
大学・学生の雰囲気	大学は古い荘厳な建物と新しいモダンな建物がうまく調和しています。学科ごとにそれぞれ建物があり、授業によっては移動に時間がかかります。学生は全国から集まっており、多様性に富んでいます。勤勉な人が多く、図書館での席の確保に手間取ります。また学生のマナーがしっかりとおり、授業中の私語はなく、皆真面目に受講しています。
寮の雰囲気	寮に住んでいるのは留学生が多く、ドイツ人の場合はちょっと変わった人が多かったです。私の住んだ部屋はももとの同居人同士がもめており、自分も衛生問題についての苦言を呈したので、完全な対立状況となり退去しました。友人にもトラブルを抱え引っ越し人が多かったです。
交友関係	日本で所属しているサークルの支部が留学先にもあったので、あらかじめコンタクトをとって留学中は積極的に参加しました。ドイツ人学生は自分から話しかけることはあまりないようですが、話しかければ気さくに応じてくれ、仲良くなりました。こちらが外国人だという意識を全くされず、普通の手話で話しかけた言葉を使ってくれるので勉強になりましたし、非常に心地良かったです。また、休暇中にはドイツ各地にいる友人を訪ねました。様々な土地をその住民に案内してもらえるので、その地の雰囲気がよくわかりましたし、友人たちとの仲も深まりました。
学習内容・勉強について	政治哲学を中心に哲学について勉強しました。ゼミでは初めはドイツ語を聞き取るのに精一杯だったので、先生に相談すると英語でサブゼミを開いてくださいました。有志の熱心な学生も参加してくれたので議論が白熱し、3 時間に及ぶこともありました。そこで友人が増え、また次第にドイツ語でのゼミにも慣れたので、本ゼミでも積極的に発言するようになりました。特にドイツ人よりは東アジアについての知識があったので、それを生かし議論を充実させることができました。講義ではレジュメや板書などがなく、自分の言葉で即座にまとめてノートを取ることが要求されます。最初はこちらも難しかったので録音をとり、全文ディクテーションをすることを 2, 3 度繰り返したら慣れ、満足できるノートがとれるようになりました。
課題・試験について	ドイツ人学生にとっても厳しい講義をいくつも受けていたので、毎週必読図書が計 100 ページほど課されていました。日本語でも苦勞する専門書ばかりな上、ドイツ語だけでなく英語やフランス語だったりするので非常に苦勞しました。まわりの英語圏・フランス語圏の留学生の助けを借りながら、何とかこなすことができました。どこの国にいても、論文を書くには原書をあたるのが普通の様なので、これだけの本を読んだことはこの先の学業への自信となりました。
大学外の活動について	日本で所属している学術系サークルの現地支部の活動に参加しました。アジアとヨーロッパでは今まで交流が多くなかったため、これから深められるよう、国際会議の企画や渉外活動を通じた助成金制度の創設を行いました。またそのサークルを通じ、8 月に国際機関でインターンをしました。実践的な語学力が向上し、帰国後の進路を決定する大きな経験となりました。
ある平日のスケジュール	7 時:起床, 8-12 時:授業, 12-14 時:昼食・自習, 14-16 時:授業, 16-22 時:図書館で自習, 22-24 時:友人と食事, 1 時:就寝
ある休日のスケジュール	9 時:起床, 10-13 時:図書館で自習, 13-14 時:昼食, 14-18 時:図書館で自習, 18-20 時 家事, 20-22 時:友人と食事, 22-24 時自習, 24 時:就寝
留学を志す人へ	留学したからといって、自動的に語学ができるようになるわけではありません。日本でできないことが外国に行ってもできる様になることはないため、きちんと戦略を練り、十分に準備を行った上で留学することをおすすめします。